



能登やさしいこめづくり情報

は種編

**「5つの1か月対策」
育苗日数は1か月以内！**

令和3年3月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A 能登わかば

浸種、催芽は、発芽を揃える上で重要な作業です。また、は種時期は田植え時の葉齢に、は種量は田植え時の植付本数に影響を与えます。良い苗を作るために、適切に作業しましょう！

1 種子消毒(適正使用で病害回避)

◆**籾に付着している病原菌を死滅させ、育苗期間の病害を回避するため、種子消毒剤が粉衣されていない種籾は、農薬の適用を確認し、種子消毒を実施しましょう。**

【表1 種子消毒における薬剤の適用(参考)】

薬剤名		使用時期	希釈倍率	処理方法	浸漬時間	薬液温度
テクリードCフロアブル(1成分)		浸種前	200倍	浸漬	24時間	10~15℃
又は タフブロック (0成分)	蒸気式育苗器で催芽	催芽前	200倍	浸漬	24~48時間	10~15℃
	浸漬で催芽	催芽時	200倍	浸漬	24時間	30℃

※薬液量は、種籾量の2倍の量を準備しましょう。

2 浸種(適正水温でしっかり吸水)

◆**浸種初日の水温は、必ず10~15℃に保ってください。**

・種子の目覚めには、浸種直後(8~24時間)の水温が重要です。

【表2 浸種初日の水温と発芽率の関係】

浸種初日の水温(24時間)	その後の水温	発芽率
低水温(10℃以下)	10℃~15℃	×
適温(10℃~15℃)	10℃以下	△
適温(10℃~15℃)	10℃~15℃	○

低水温で浸種を開始すると、その後の水温が適温となっても発芽率が低下する場合があります。
※飼料用米は特に低温に弱いです。

◆**発芽揃いを良くするため、低温での浸種(10℃以下)は行わない。**

- ・良い苗を作るためには、発芽揃いを良くする必要があります。浸種時の水温を10℃~15℃に保つことによって、どの種子にも等しく吸水させることが必要です。
- ・ただし、高水温(20℃以上)では、十分に吸水しないうちに発芽が始まり、発芽ムラの原因となるので、注意してください。
- ・浸種は、直射日光や風が当たらない場所で実施してください。

◆**酸素欠乏、発芽阻害物質を避けるため、浸種水量は種籾の2倍以上とし、2日に1回程度水を交換。**

- ・浸種を開始すると、種子から発芽阻害物質が放出されます。酸素の供給、発芽阻害物質を取り除くために、2日に一回程度水を交換しましょう。
- ※薬剤吹付済種子は、最初の3日間は水を交換しないで下さい。

◆**浸種の積算温度(水温×浸種日数)は100℃以上**

- ・積算温度が不足すると発芽が不揃いになる場合があります。(飼料用米は80℃程度)
- ・浸種終了の目安は、籾殻の上から胚が白く透けて見えるようになった頃です。

【表3 浸種日数の目安】

水温	浸種日数
10℃	10日
15℃	7日

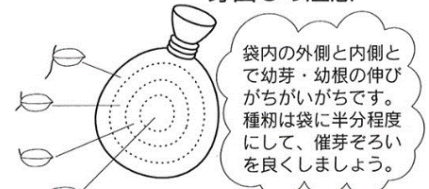
3 催芽（必ず実施し発芽を揃える）

- ・催芽では、発芽に最適な温度を与え、発芽を揃えましょう。
- ・芽は1mm以上伸ばさないようにしましょう。（表4）
- ・催芽揃いを良くするため、袋の中心部と外側で水温差を生じさせないように、袋に詰める種粒量は半分程度にしましょう。

【表4 催芽程度と催芽日数】

水温	催芽程度	催芽日数	注意事項
30℃	鳩胸～ 1mm未滿	1日～ 1日半	<ul style="list-style-type: none"> ・芽を伸ばしすぎると、芽が絡まり、は種ムラの原因となります。 ・芽が伸びすぎた場合は冷水に浸し、伸長を止めてください。

芽出しの注意



ハト胸



伸びすぎ



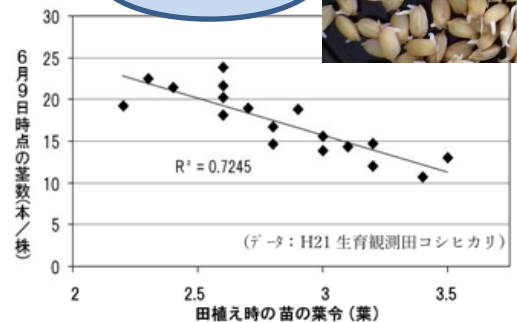
4 は種（田植えの予定に合わせて計画的に）

◆は種日は田植え予定に合わせて設定し、健苗育成に努めましょう。

- ・育苗期間は1か月以内としましょう（表5参考）。
- ・育苗期間が長く、葉齢が進んだ苗は、分けつしにくく、優良茎を確保できなくなります。（図1）
- ・4月中旬以降のは種は、育苗期間が高温のため、ヤケ苗、徒長苗になりやすいので、注意しましょう。

【表5 田植え予定日と適正な育苗日数の目安】

浸種	3月24日	3月29日	4月4日	4月22日	5月2日
催芽	4月4日	4月8日	4月15日	5月1日	5月12日
は種	4月5日	4月9日	4月16日	5月2日	5月13日
田植	5月1日	5月5日	5月10日	5月20日	5月30日
育苗期間	27日間	27日間	25日間	19日間	18日間



【図1 田植え時の葉齢と分けつの発生の関係】

◆品種ごとののは種量の目安について

- ・品種によって播種量が異なりますので、は種機の設定に注意しましょう。（表6）

※ 高密度は種育苗技術（密苗など）の場合
 ・専用の田植機が必要です。
 →通常の田植機で厚播きの苗箱を使うと植付け本数が過剰となり、品質が低下します。（詳しくは最寄りのJAへ）

【表6 品種ごとののは種量】

品 種	乾籾重 (g/箱)	催芽籾重 (g/箱)
ゆめみづほ	120	156
コシヒカリ	120	156
ひやくまん穀（大粒）	145	189
夢あおば（飼料用米・大粒）	145	189
あきだわら（飼料用）	コシヒカリに準ずる	

◆床土量やかん水量は、使用する培土に合わせてみましょう。

- ・JAで取扱う軽量型培土は、従来品と比べ床土量、覆土量、かん水量が異なります。
 ※ 適切な使用方法については最寄りのJAまでお問合せください。
- ・苗立枯病を防ぐため、「ダコニール1000」の500～1,000倍液を箱当たり500ml 散水処理してください。
 ※ 種子消毒で「タフブロック」等の微生物農薬を使用した場合は、「ダコニール1000」は使用できません。

5 出芽（適正温度で病害回避）

◆出芽器を用いた加温出芽では適温の30℃に設定しましょう。

- ・芽を伸ばしすぎると、軟弱で病気に弱くなります。
 ※ 芽に光をあけると伸長を止められる。

【表7 加温出芽の目安】

- ・32℃以上の高温になるとリゾープス菌などが繁殖し苗立枯病の原因となります。

出芽温度	出芽日数	芽の長さ
30℃	2～3日	8～10mm程度

◆無加温出芽（平置き出芽）では出芽揃いまで保温資材で被覆保護しましょう。

- ・保温資材で昼夜被覆し、高温日には30℃以下になるようハウス換気をして下さい。
- ・およそ5日程度で出芽が終了します。その後は慣行の緑化作業を行って下さい。